

国際政治学

講義9b-2

戦争原因としてのコミットメント問題(応用)

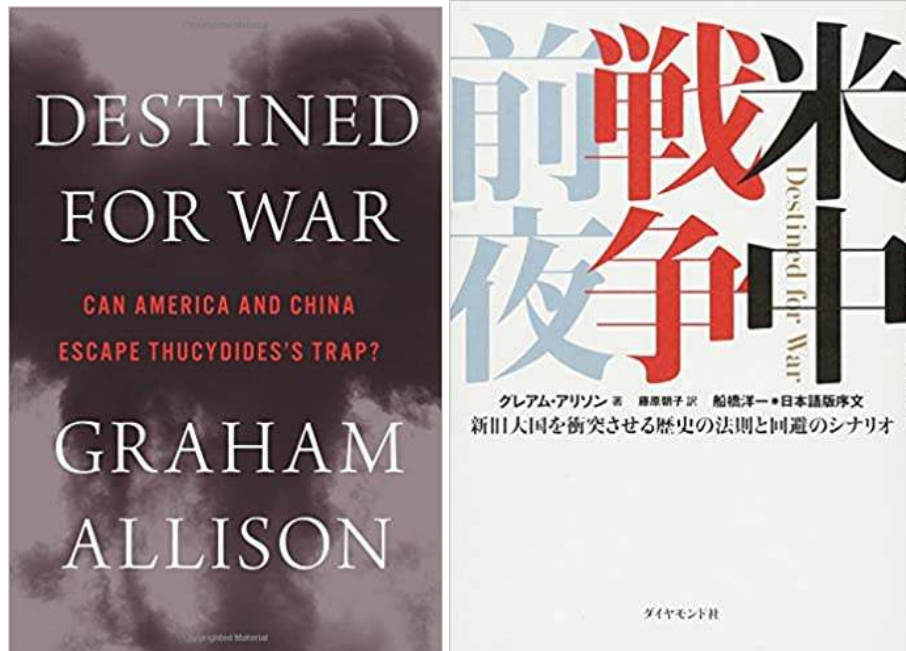
- 米中対立と「トウキディデスの罠」: 予防戦争の問題

早稲田大学
政治経済学術院
栗崎周平

コミットメント問題と予防戦争

コミットメント問題と予防戦争 (Week 4 講義9b)

- その背景としての「力の移行・勢力変遷」
- Power Transition Theory (力の移行理論)
- 旧覇権が新覇権に移行するとき、大戦争が起きる
- ペロポネソス戦争
 - アテネの台頭とスパルタの覇権



グレアム・アリソン

Destined for War

「トゥキディデスの罠」

- 力の移行期の大戦争
- 米国の覇権と中国の挑戦

国際政治学

講義9b

戦争の構造的原因 ～パワー・トランジション～

早稲田大学
政治経済学術院
栗崎周平

パワー・トランジション理論の基礎

力の移行/勢力変遷 (Power Transition) 理論 の仮定

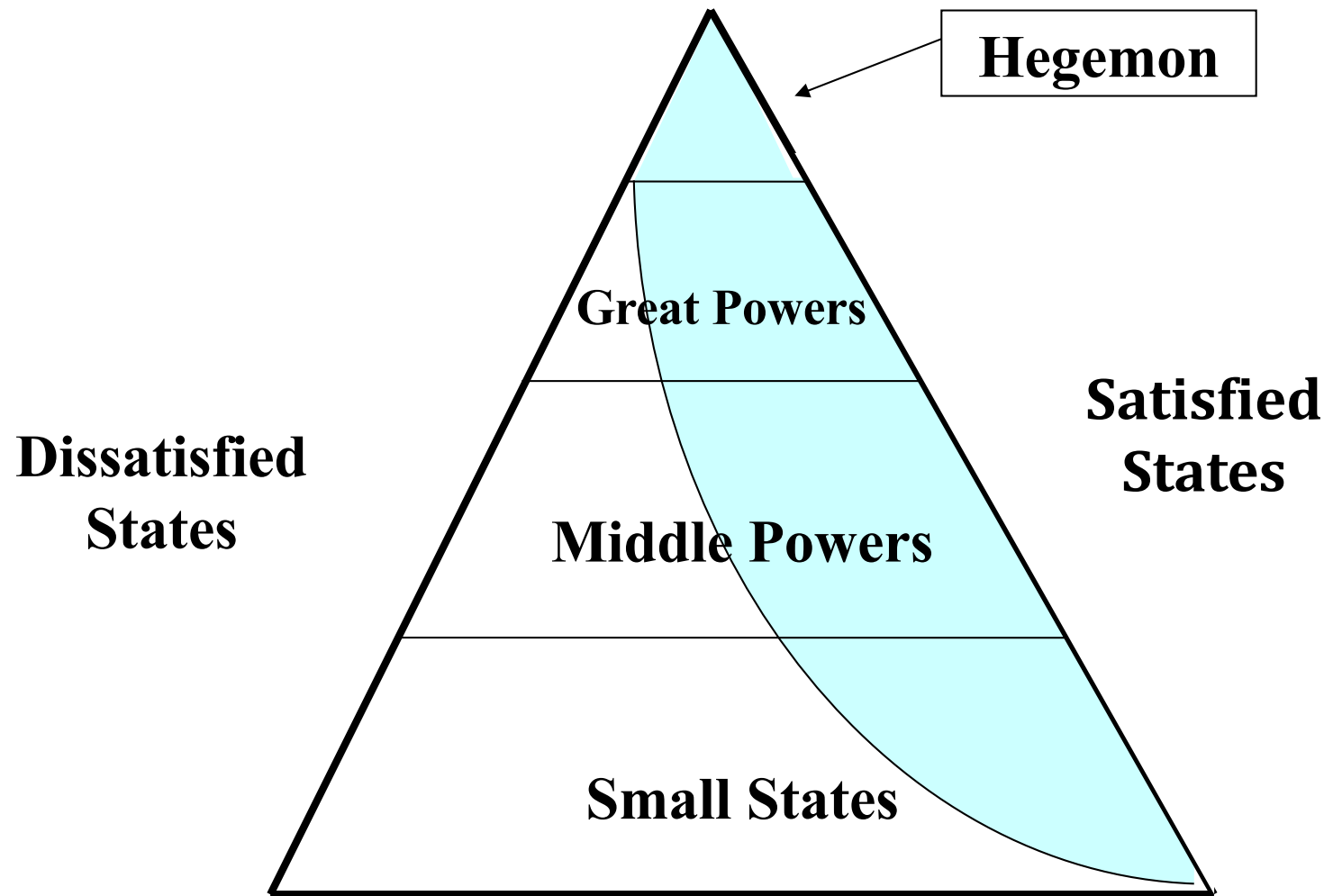
国際システム

- 無政府(anarchical)かつ階層的(hierarchical)
- 覇権国が国際政治の“rules of the game”を設定
- 国際ルールは覇権国と他の現状維持国(satisfied powers)によって維持
- 現状不満国(Dissatisfied states)の存在

国家の2つの政策目標

- 国家は安全の最大化（他の現実主義と共通）
- 国際政治のルールや規範・秩序への影響力の最大化

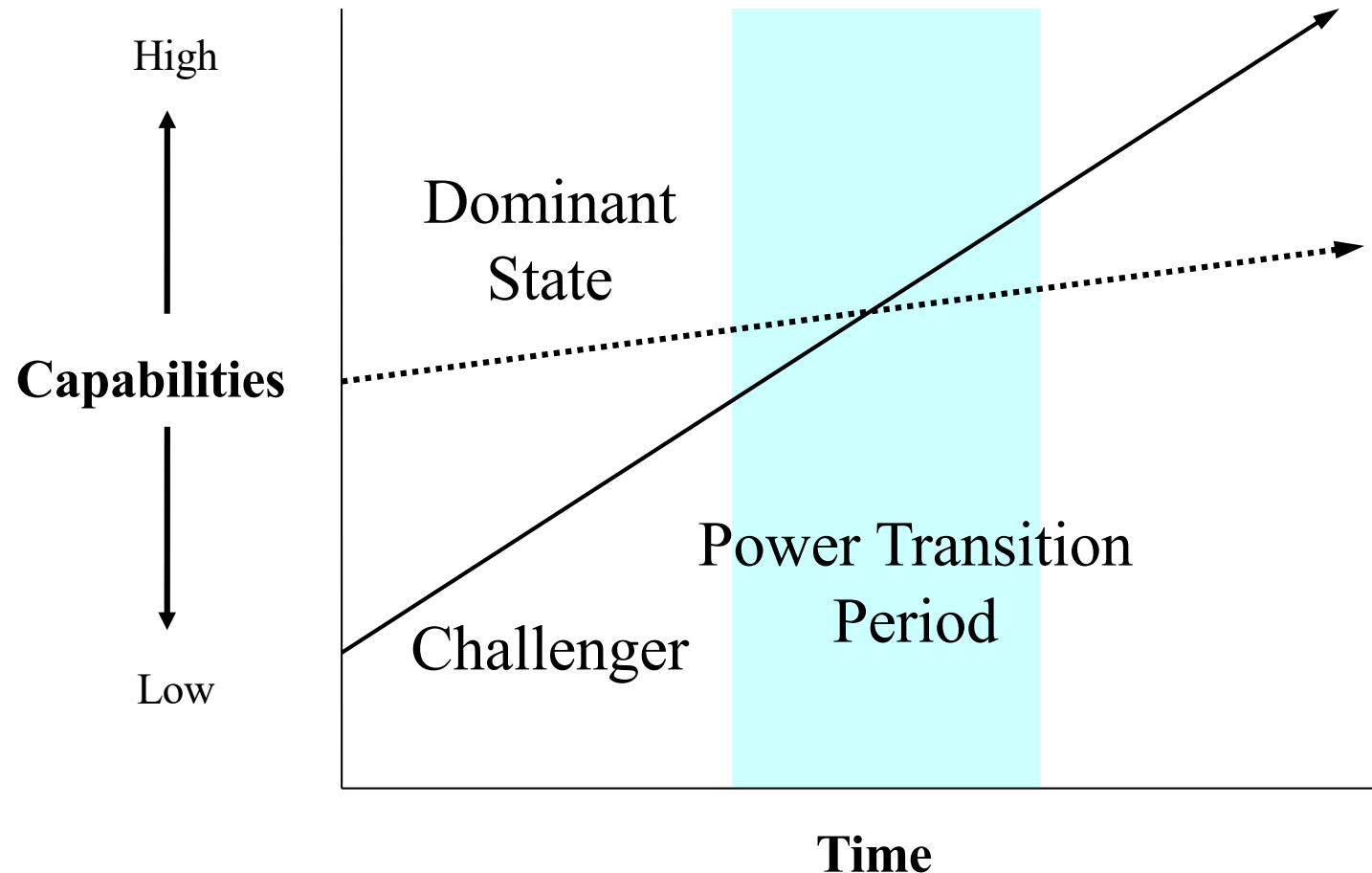
パワー・トランジッション理論の基礎



パワー・トランジッション

力の移行/勢力変遷 = 大国が覇権国の国力を超えること

- 経済発展・政治発展 ⇒ 国力のバランスは常に変化
- 大国が、覇権国に対する挑戦国として浮上



パワー・トランジッション（なぜ？）

力の移行を巡る動機

- 覇権国は現状の国際政治秩序(＝現行の体制)の維持を目指す
- 挑戦国は新たな国際秩序(＝新たな体制)の策定を目指す
 - 急速な国力の伸長は、現状への不満を増大する
 - 台頭国はシステムにおける地位とrespectを求める

力の移行を巡る紛争

- 国際秩序 (Rules of the game) を巡る争いは、必然的に、システム変更が争点になる
- 国際システムにおける力の階層の変更と、新しいルールの策定を伴いうる

戦争原因としてのパワー・トランジッション

戦争原因

- 強大な現状不満国（挑戦国）が、既存の国際秩序に挑戦する力を獲得するとき、システム変更を伴う大戦争の蓋然性が高くなる
- この条件が満たされるのは？
 - 覇権国と挑戦国の力が拮抗するとき
- なぜか？
 - 予防戦争におけるコミットメント問題を想起
 - － 力の移行期に戦略的予測が最も不確実
 - － 覇権国・挑戦国のいずれも戦争のインセンティブを持つ
 - － 挑戦国は、ようやく、初めて覇権国に対して勝機を見出す
 - － 覇権国は、挑戦国を打破する最後の機会とみる

戦争原因としてのパワー・トランジッション

パワー・トランジッションとしての戦争

- 大国としてのテストは大国間戦争の能力、力のテスト
- 大国間戦争は常に現状維持国が始める (A.J.P. Taylor)
- 全ての大国間戦争は予防戦争（侵略戦争にあらず）
- 挑戦国による将来の力の行使を未然に防ぐ

戦争原因としてのパワー・トランジッション

歴史の皮肉

1. 大国としてのテスト

- 「大国（列強・major power）」として認知＝他の大国に対して単独で大戦争を行うこと
- 日本、日露戦争、セオドア・ルーズベルト大統領（1906年日本の外交使節交換で初めて大使を派遣；他の大国は依然として公使レベルで外交関係を維持）

2. 大戦争の遂行能力：大国としての証明

- 大戦争は被害甚大で、国力を疲弊する
- WWI後、オスマン帝国、オーストリア・ハンガリー帝国、ロシア帝国は解体
- WWII後、大英帝国、第三帝国（ライヒ）の瓦解
- 大戦争後に興隆した唯一の国家は、米国のみ

パワー・トランジッションの実証分析

大戦争はこのパターンに当てはまるように見える

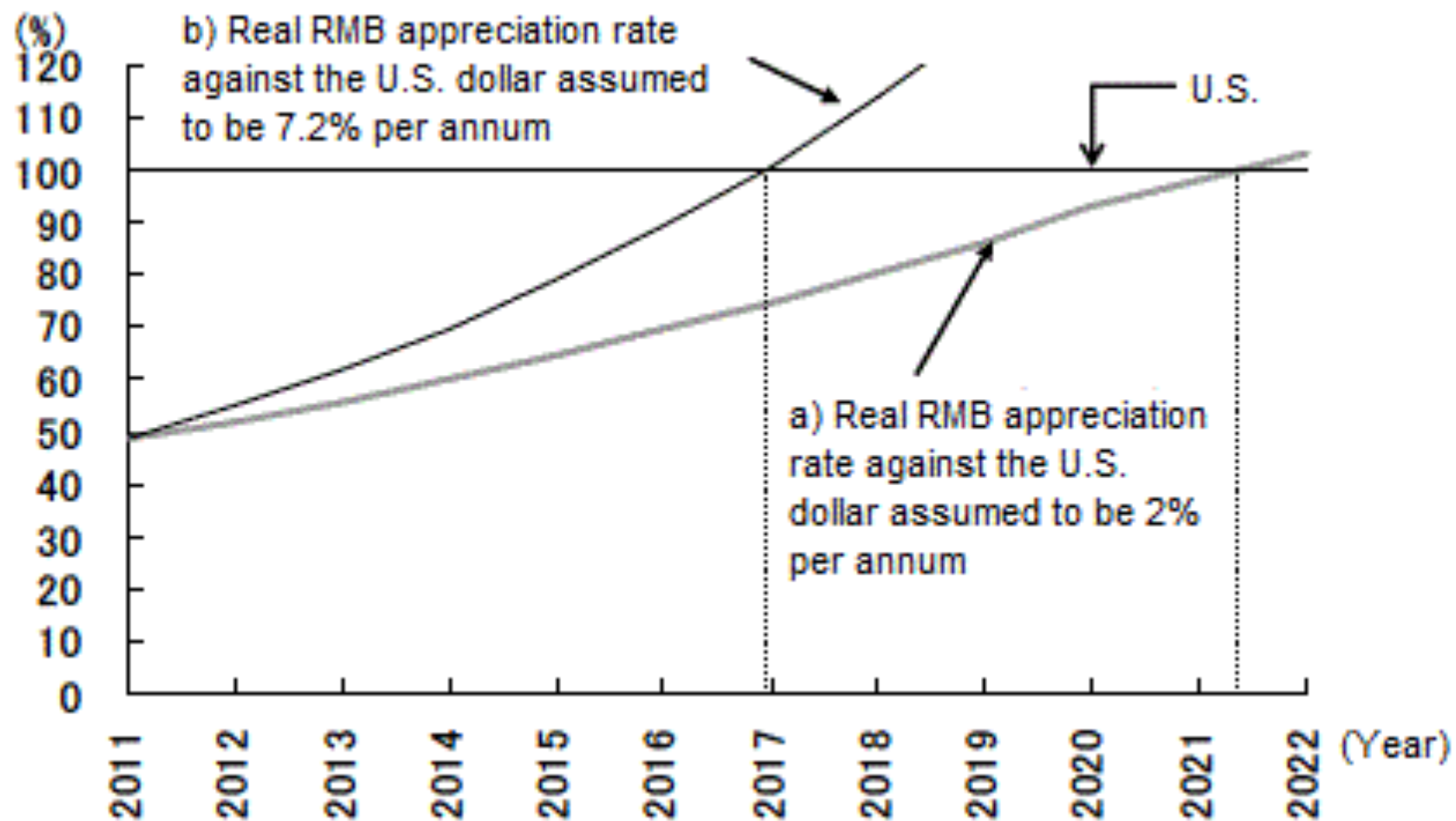
- 覇権と戦争のサイクル
- 第一次・第二次世界大戦:ドイツが英国を猛追
- WWI はドイツ対英国の戦いではない
- しかし、例外(平和的な覇権の移行)もある: US-UK

大戦争	力の分布・力の移行の有無		
	力の不均 衡	力の均衡 移行なし	力の均衡 移行有
あり	0	0	5
なし	4	6	5

平和的な覇権の移行とコミットメント問題

平和的な覇権移行の例：

- パクス・ブリタニア → パクス・アメリカーナ
- なぜ英国は覇権の地位を自発的に放棄し、米国に委譲したのか？
 - 力の移行に戦争が伴う必然性は何か？
 - 権力の乱用を行わないとするコミットメントはクレディブルか？
- 覇権地位譲渡の後に、米国による搾取はないと英国は確信？
- John Ikenberry (2000)
 - *After Victory: Institutions, Strategic Restraint, and the Rebuilding of Order After Major Wars*, Princeton University Press
 - 戦略的な自己制限 Strategic self-restraint
 - 米国は、国内の民主制度や、国連憲章や拒否権など国際制度を通して、単独支配が困難なように自らの手を縛ることで、
- 米中開戦前夜なのか？



<http://www.rieti.go.jp/en/china/12031301.html>

China vs US GDP

Long-term assumptions

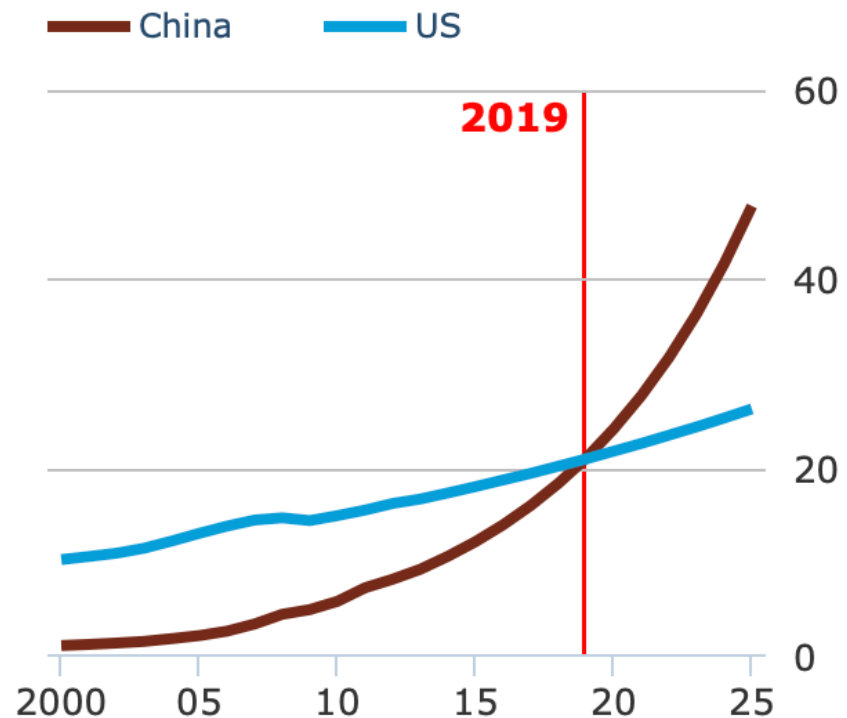
Annual average, %

Enter values between -10 and +10,
to a maximum of two decimal places.

	China	US
Real GDP growth	<input type="text" value="7.1"/>	<input type="text" value="2.4"/>
Inflation†	<input type="text" value="4"/>	<input type="text" value="1.4"/>
Yuan appreciation‡	<input type="text" value="2.9"/>	<input type="button" value="Apply"/>

**China overtakes US
in 2019**

GDP
\$trn*



Sources: IMF; *The Economist*

*At current prices & market exchange rates †GDP deflator ‡Against the dollar

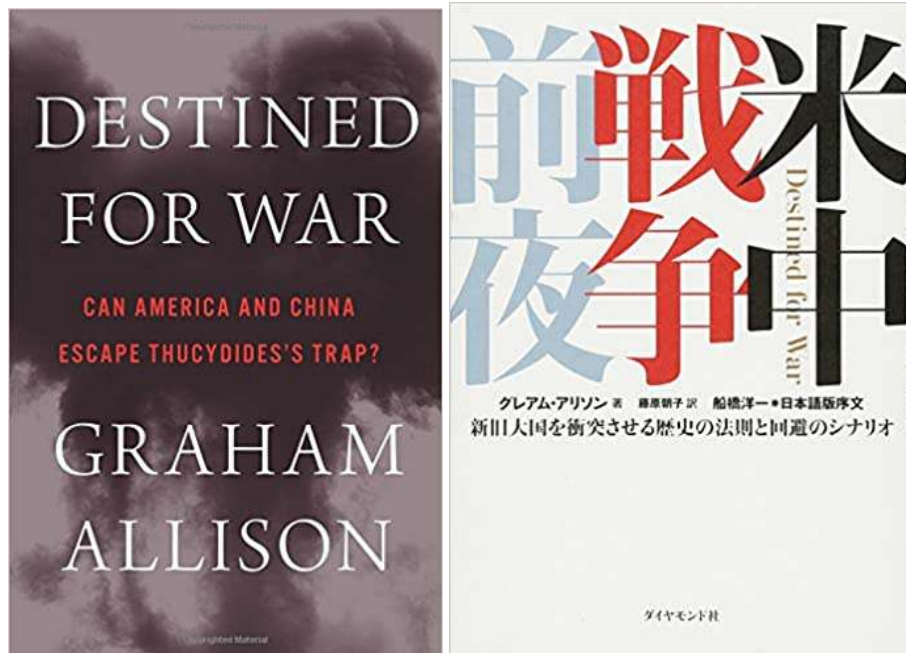
覇権の移行、コミットメント問題、予防戦争

グループワーク

主題：グレアム・アリソンの「トゥキディデスの罠」の是非を問う

課題：次の問いにそれぞれ1パラグラフ(各200字以内)で論述せよ

- (1) 米中は戦争前夜なのか？それはなぜか？
- (2) 戦略的な自己制約以外に他の平和的な覇権移行のメカニズムはあるのか？あるのであれば、それは何？ないのであればなぜ？



グレアム・アリソン

Destined for War

「トゥキディデスの罠」

- 力の移行期の大戦争
- 米国の覇権と中国の挑戦